

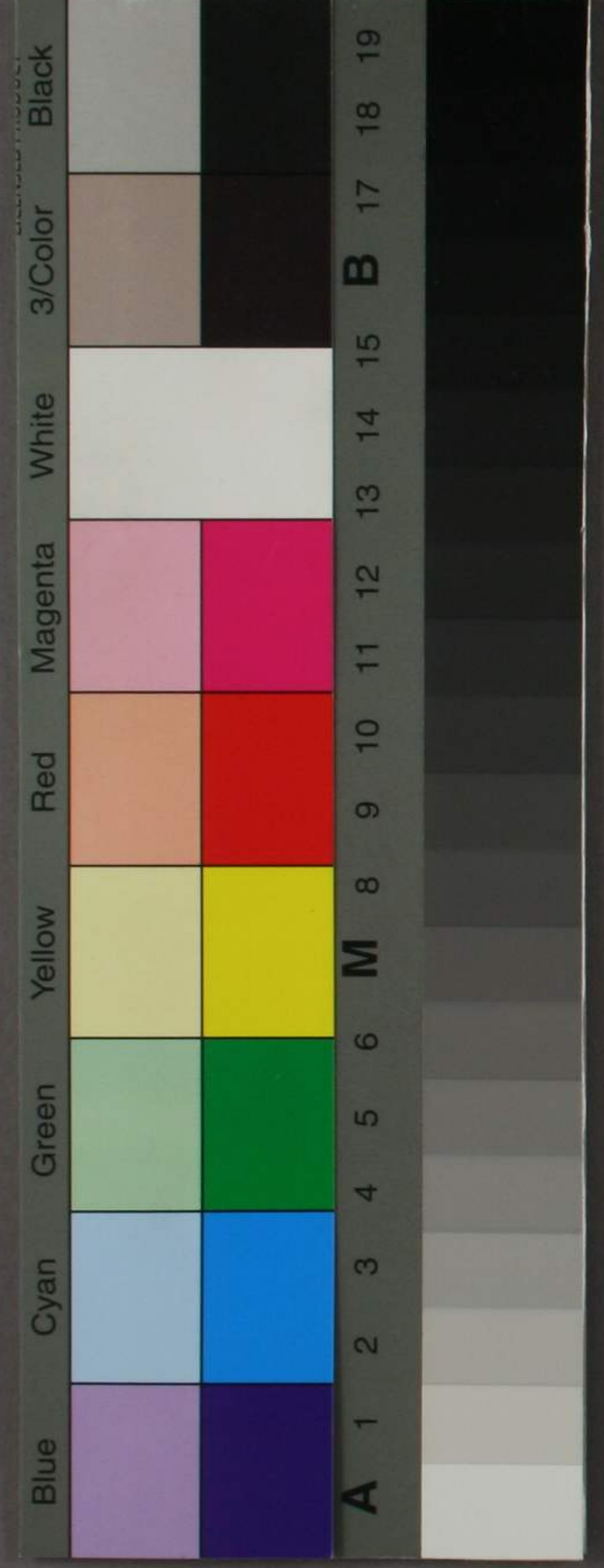


昔昔
語語
質質
屋屋
之之
卷卷
庫庫
四四

初篇

昔昔語語質質屋屋

1161
4



13 特
1161
4

昔語 質屋庫 卷之四

東都

曲亭馬琴演

平將門 哀龍の藪東乃下

こそ目今も論じど。七人の將門を。づきともつんがけし。秀郷竊
 小美女とりて。その蜂谷の動くりの。真の將門ありと。あつては。遠小
 こそを射し。しといふ小説。藤六左近が。狂歌より。出し。後。小その。馬を
 結ぶりの。又一條の怪談を。添え。將門の首級。京師への。傳へて。氣られ。う
 け。怨霊。その首級。小。ま。りて。は。粘。ど。夜。み。く。光。を。を。み。ら。る。こ。こ。が
 軀を返せ。頭を。継て。今。一。軍。せん。と。呼。り。し。る。人。を。怖。て。近。つ。の。の。は。
 かくて。ある。人。こそ。と。え。く。將門。の。ま。う。を。よ。う。ぞ。切。ら。れ。る。俵。藤。太。が。
 とうり。と。あ。く。と。詠。し。る。お。門。の。首。級。呵。く。と。う。ら。笑。ひ。か。て。目。を。閉。て。



昔語 質屋庫 卷之四



比叡山よ
 二兎
 平安京
 直下
 とこ

實屋庫卷四



伊与揚純友
 藩主門

實屋庫卷四

良兼朝
八月天
慶元年
六月廿
旬二病
死又同
三年二
月二將
内滅亡
り

人々下めり。將門の謀叛せん。成りて。度う叙んとし。つれども。
果さる。とつる。かくて。又國香將門の和議破る。土浦の城を
落さる。國香朝臣討死して。妻子郎黨東西没落せし。國香
と將門と。美女を。あつて。起ると。一説あり。まされ。され。
將門ハ下めり。叛逆の。あつて。國香將門叔任の確執起り。終小
椽郡司。或ハ武勇小。或ハ文才。その下。知
從い。我意と。振ふ。と。多り。國香將門叔任の確執起り。終小
八國團の騷擾と。り。かり。恒小常陸前椽源護の子ども。扶
隆繁ホ三人。お門。為小害。せし。悪行。詔。過。上。総
女良兼朝臣大。怒り。お門。討滅。せし。倭合戦。を。催。し。恒小
前上総。女高。王の妻の子。平良正。良兼。と。兄。弟。と。ふ。り。つ。

ことと助け。叔任。頻。小。残。ふ。と。り。お門。武勇。小。敵。が。つ。
一。族。の。確。執。あり。謀。叛。と。名。り。の。ひ。唯。貞。盛。朝。臣。の。復。讐。の。志。
ハ。あ。り。が。ら。勢。ハ。彼。小。敵。が。け。且。怒。を。か。し。お門。從。ふ。と。
い。ど。も。か。つ。て。あ。つ。ふ。密。小。京。の。守。り。縁。由。と。さ。う。と。り。
文。室。好。立。ら。も。小。首。途。と。折。お門。を。と。つ。け。百。餘。騎。の
兵。と。追。せ。恒。小。信。濃。國。小。縣。郡。國。分。寺。の。邊。に。貞。盛。好。立。追
詰。ら。ま。好。立。ハ。矢。小。中。り。貞。盛。ハ。幸。と。山。中。へ。隠。れ。り。ま。つ。小。兼。平
八。年。春。二。月。推。守。與。世。王。女。源。經。基。朝。臣。と。足。立。郡。司。判。官。代。武
芝。と。不。治。の。う。瓜。淨。ひ。と。事。を。と。と。お門。と。ま。つ。と。
恒。小。為。小。武。彦。團。へ。立。越。既。ハ。和。睦。と。り。待。べ。と。り。と。武。芝。が。後

備上見せり下まへ慈ちの亭やう南なん小宮殿せうきうてんと造宮ぞうきうして平安城へいあんじやう小擬せうぎひ橋はしとて。
 京きやうの山崎やまざきと相馬郡さうまぐん大井おおいの津つと近江おんみの大津おほいつと。左右さゆう大臣だいじん納言なごん参まゐ
 議ぎ文武百官ぶぶひやくかん六辨ろくへん八史はちしとてく悲かなし定めさだめてとひとり曆日博士にっぴつはくしと
 関せきりといふかたは畢竟ひつじやう狂人の所ところ為なり小等せうとう。こゝらのつらひ某たれ由よしいと
 苦くるくくさひと。このたれ秀郷ひでさと下野しも小あり。ついでその為なり傳つたへ
 かたきりその為なり傳つたへとらん。共とも謀まうふ不足ふそくととてとて。何なにうせんか
 昔むかし謀まうふ不足ふそくととてと下慈しも小赴せうしとて。こゝと對面たいめんと。何なにうせんか
 將門しやうもんいまだ謀まう叛はんのたつば新皇しんかうと偽稱ぎせうせざる已前いぜんありありと
 かに亦また彼負盛朝臣かへふせいしやうしんへあつ山中やまなか小躲くまて。仇人あひだの障さやを避け密ひそ小
 為憲たけのこ秀郷ひでさと小謀まう合あて短兵たんべい急いそぶ公私こうしの剛敵かうてきを滅めしこれにその功いさ
 少すくととせと。その次つぎは常陸ひさの及およ藤原ふじはら維綏いすい也臣やしんの息男いきお為憲朝たけのこ

臣しんと下野押領使しも藤原秀郷ふじはらひでさと朝臣しやうしんの功いさ又大またなる。さへは將門しやうもんの
 立地たちぢ小滅せつとてこの忠文ちうぶん忠舒ちうしゆ。経基けいきホの官軍くわんぐん数万人すうばんにん駿河國すまがはのくにまて
 是こゝよけまは將門しやうもん小属せふ従したがひる鳥合とりあの兵へいホのり死し傳つたへと。こゝ
 驚おどろき怖おそま或あるは落おちるせ或あるは降くだる。残のこりたる兵へいハ僅わずか千人せんにん足たり
 びるり小けまは將門しやうもん勢せハ突つりて貞盛ていせい秀郷ひでさと小營せうまて。さうれば忠
 文ちうぶん以下いげの大將だいしやう。つらら朝敵しやうてきと残のこりてつららその功いさなりととてつらら
 又また同おなく。ホの第五條だいごじやう六郎ろくらう公連こうれんが將門しやうもんと練れんて死しつららとて
 一いつの遠とほくらぬ世よの小説せうせつとて。徒たるる死しとてお門かど記し小兼平かねへい七年しちねん十
 一月いちげつ五日ごにちとてみ良兼らかね椽源せんげん護ご。并ならみ平貞盛へいていせい公雅こうが公連こうれん秦清しんせい文凡ぶんぼん
 常陸國ひさのくに等ら將門しやうもんと追捕しゆほとて官くわん府ふと武藏安房むさしやすらふ上総常陸じやうそくひさのくに下宅
 野ホののの國くに下くだされぬとてえつら。かまは公連こうれんハ將門しやうもん討手うちての一人ひとりなり。

中將 共了 誠信の

情強 上ごふぞとせ。去とある。伏假りて忠文のふの仰りくえしる。左工門
 督誠信と右衛門督忠文と官爵名告も。その唱和くひら。これら
 此の小説あると軍記ふえ我らとこれ世俗大々忠文のふこと
 多。宇治の橋姫と。その怨灵合せといひ怪談也。この人宇治に住
 のひとれば。又お門追討の官軍ハ朝敵滅びぬとて。駿河
 國より。京へ取り来りしる。あつ物も記し。れど將門記よる
 と此の官軍既小將門が警ましるを。安といども。途より及洛せし
 みのあつ。海道の手の將軍。刑部大輔藤原忠舒の於下。孫
 權少掾平公連。軍記よお門と誅す。て押領使とて。四月八日てりて
 入部と。即謀叛の類と尋ね。その内賊首お門が舍弟七人。或ハ
 鬚髪と剃除して。深山入り。或ハ妻子を捐棄て。各山野小迷といふ。

このと此奥世王の上孫國とく生物れ。將門が兄お義と。藤原玄氏と。相
 模國よ到て官軍小教書せしる。ふるん。まらもこの忠文朝臣ハ。智
 勇も大く。よのあつ。るれ。佐々木三郎兵衛尉盛綱法師三念
 か言小吾。天慶年中。平將門東國ふいて。叛逆を企し。と此宇治口
 部卿。追討使し。膳と。慶の間の。宣下有。この旨を。戸部
 籍と。拙て。坐を。起て。則系内。節口を。給。の後。歸宅。小。及。び。直。り
 洛外。小。赴。る。ぬ。勇士の志と。と。こ。こ。と。り。て。善。と。は。と。東。鑑。よ。ん。え
 たり。か。且。バ。忠。文。の。官。軍。の。後。ま。し。る。と。俟。ん。と。く。如。小。澤。軍。終。よ
 合。我。小。の。あ。つ。し。と。い。ふ。そ。我。の。説。ハ。信。ど。る。小。足。と。は。何。の。り。悪。乃
 字。と。り。し。め。て。神。皇。正。統。紀。の。悪。右。衛。門。督。と。記。こ。ま。し。し。や。
 傳。写。の。の。信。頼。と。さ。り。ら。く。と。る。又。宇。治。悪。左。府。と。多。ひ。と。か。く。と。れ。る。

ころるに。あ人宇治小住けし。世巻て宇治の口部卿といひ。喜
と好く。殿綱一六二品式部卿重明親王醍醐天皇の皇子。ふくら宇治よ
もたぐ。忠文小斎とて。ひさひさのひさひさの。今昔物語第三十卷。言ん
ら。又お門才三の女児尼とら。て。如きと法名。奥州惠日寺乃
側小菴と締びて。寡居たり。有一日病。頓死し。け。小地彦井の
冥助よ。て。蘇生志。り。く。世の人地彦尼と。渾名。り。年八十餘
う。て。迂化と。え。亨釋書卷之十八。又お門の子。小平良門と
つ。りの。根州。彦田の城を攻。満仲朝臣と。撃んと。却源二綱小
撃。ま。る。は。物。り。つ。の。究。め。る。小。説。み。く。あ。つ。つ。る。と。あ。い。あ。い。今
昔物語。小源。宛と。平良文と。常。武。藝。の。甲。乙。と。争。ひ。有。一。日。各
軍。と。の。廣。野。小。出。く。務。員。と。試。ふ。お。と。ぬ。ら。馬。の。達。者。り。し。ふ。

貞盛丹
波守たり
しこと
しこと
息維衡
の侍
の

互ふ感。て。和睦。し。る。う。紙。り。被。宛。が。字。と。三。田。源。二。と。い。ひ。良。文
が。字。と。村。岡。五。郎。と。い。ひ。ら。う。り。宛。と。綱。子。良。文。と。良。門。と。て。良
門。が。彦。田。攻。と。い。ふ。紙。紙。り。出。せ。し。大。系。圖。と。り。推。し。た。お。門。の。子
小。良。門。と。い。ふ。の。は。良。文。の。高。望。王。の。季。子。み。く。從。五。位。下。從。者。有
將。軍。と。す。村。岡。五。郎。と。稱。と。便。お。門。が。叔。父。と。將。門。の。子。小。良。門。と。い。ふ
の。の。出。家。と。生。涯。行。ひ。と。ま。と。あ。り。ら。何。や。ら。ふ。と。い。ふ。か
書。名。を。忘。し。し。れ。ば。頓。少。の。搜。り。や。ら。し。と。ま。由。を。否。の。志。ら。む。と。又
平。貞。盛。ぬ。へ。む。ご。ま。猛。と。く。凄。い。人。の。丹。波。守。と。在。任。の。時
悪。瘡。出。ま。く。京。よ。う。医。師。と。迎。下。し。て。え。せ。け。し。バ。見。干。と。い。ふ。系
る。と。て。治。ぐ。し。と。い。見。干。と。の。妊。婦。の。腹。と。さ。れ。く。男。兒。な。れ。ば
それ。と。系。小。加。く。調。劑。と。と。る。人。貞。盛。の。子。の。左。衛。門。尉。維。衡。と

たふ書がめれば更なるたことと誣がじり果て如此
 るた貞盛朝臣の人情も漏る罪つれ入る。是を以て彼
 とありふ。そのむごまの猛く。虎狼小異る。そのお門ふ
 家らばとん宣るる。邦七代の孫清盛入道に至る。その暴究り。
 子孫遂小朝歌の罪名を負ぬ。又彼医師のつふこらえ。やらん
 医ハ仁術とこそ。又母を殺して。その赤子を某ふせよと教ふる。これ
 かむごまの又貞盛ぬ。よあらむと。憎むごまめ。こらえ。こらえ。こらえ
 用ひる。將門紀といふ。のの義徳三年正月廿九日。大智坊小於
 拜書と。と奥書のり。堀河院の印字小當と。現み。此ころ書綴り
 するのの。とち。御教書る。といふ。漢文小擬と。
 書ごまといと。拙けと。ども。究め。古書。の。古の。ま。

將門の古衣のま。よ。た。つ。ひ。あ。た。あ。つ。ひ。
 物々を匿ま。と。は。款。と。る。身。方。と。る。も。頭。身。の。世。あ。る。わ。ど。よ
 こ。死。て。の。後。何。ら。あ。ま。さ。れ。ば。人。の。む。じ。の。人。み。あ。と。辭。の。後。あ
 遺。も。と。ま。と。ま。く。ん。訛。と。傳。へ。訛。と。ま。ま。實。り。の。ま。く。虚。言
 お。不。る。の。物。の。本。の。常。る。ま。は。實。る。も。よ。虚。言。も。又。あ。ら。う。と。ね。ど。
 よ。く。史。を。続。実。録。と。園。て。と。草。紙。物。語。を。え。ら。ん。あ。ら。う。て。な。ま。る
 亦。と。ま。る。から。虚。実。と。ころ。小。辨。へ。易。し。書。を。と。り。理。義。を。尋。ね。て。よ。ま
 求。る。と。る。た。へ。接。る。山。小。遂。み。が。じ。善。を。傳。へ。惡。を。傳。へ。ある。と。あり。し。
 又。る。死。と。を。あり。と。と。る。も。皆。是。書。の。中。ふ。ある。ま。が。勉。て。その。惡。を。懲。し。
 その。善。を。勉。ん。と。あ。ら。の。ま。あ。ら。ん。ゆ。に。ぬ。べ。け。ま。と。せ。め。その。罪。を。つ。け
 小。か。る。接。び。と。る。と。よ。と。求。め。て。古。人。を。非。る。あ。ら。の。ま。よ。く。笑。め。り。

やどりばまの鼻うちらうとぞ感づりぬ。

第八 眉間尺が觸髅盃

浩知ふ悔びしる唐木の匣小高敷うけて眉間尺が觸髅盃と写れしるが古衣の迹小居くまば衆皆ひびくこととて世俗ふとてくまふれしる眉間尺が觸髅りて他まる盃るるぶと奇しその紐をせく解てよとの小備るるりの子とけりて終てぞ盃とる後小忽地跳りておりののちりふも他ぞ木と彫て底ふくしる盃へ朝絵と金うく泥しるるれびも呆果て笑と忍び匣書つけ小觸髅とあるふこて匣と盃とを合せるりのるど触髅盃といふりの人の頭顱小漆て酒器とせりのるふ木彫るれびとけりてと研まぶ盃も又歎息何ふふの名あるや某由終てまぶ彼眉間尺といふ猛者ハ唐

山楚國の劔匠干将莫邪が子ぞりる楚王の妃肥満て夏の日の熱と苦とちりて蔵の柱と抱きつり身と冷ひひく終ふその氣と感づてちりて蔵の丸といとちりち小産ひぬ是究上の濁秩るれバ楚王これをりて干将小劔と造しひひる干将命とけりるその妻莫邪小合隄るに凡三年ちを雄雌の劔とバ作りしる陽の劔と干将と名つけ陰の劔と莫邪と唱ふこと二つあるが進せんといと惜くどひく陽の劔と深く陰の一口とたてまつる小楚王その成まるこの遲さと怒りて之地干将と殺しりるまろ干将が遺腹の男兒ありり彼と成長小及びて刃の天高く脊力つり眉の間の廣れと一尺小ありしる眉間尺とぞ喚しけるかくて有一日母莫邪小父の工を問ふ母ハ啼泣りか子小對ひもん身が又楚王の為小劔と作りしる三年ちを修り果しる王その遲と責又

一のぶら劍の只一ツのを怒つて家もろくを殺しひさかたのぼと豫く
 まれば己身が又またたよ吾儕小密語もやう。これゆゑ殺される戸と出で南山
 を弟まばねる上小生り。劍はその背小あり。腹の子成長後小問は如け答をこ
 直せりと告ふけし。眉間尺大さふ驚き。又が非命の死を悲き。かて南山小
 對こつ。後よ件の劍と獲て。楚王と相殺むんと。かり。復小楚王の夢し。
 一個の女年の眉間の廣と。二尺あり。るが王と父の仇を。殺んと。こ
 とめめえら。よろそゆと。懼と。眉間尺が頭と。さうて。も。六千金と
 賜べ。とて。國中。小募。一。六。眉間尺。脱。去。て。山中。小。呻。吟。を。た。客。を。ら
 ぶ。と。ま。ふ。の。あ。く。その。ら。歎。く。故。と。問。ふ。父。の。仇。人。を。報。ひ。く。の。し。る。の。の。顔。赤
 と。物。語。ま。ば。客。は。て。感激。し。つ。れ。は。小。楚。王。頻。ふ。お。ん。身。が。頭。と。干。將。の。劍。を
 求。む。と。ま。と。獲。て。獻。ら。ば。恩。賞。限。ら。ら。んと。あり。り。の。二。物。と。ま。小。借。さ。

一。れ。必。お。ん。身。が。為。小。仇。と。復。ぶ。べ。と。つ。六。眉。間。尺。飲。び。く。か。て。ま。づ。う。ら。劍。つ。
 頭。と。劍。と。両。手。小。提。生。が。如。く。ま。う。け。客。を。ま。と。ま。と。涙。と。流。し。れ。れ。
 身。小。肩。と。と。言。を。放。て。誓。ひ。一。六。軀。ハ。撲。地。と。仰。息。ら。う。か。く。て。客。を。以。て
 楚。王。小。ま。ま。ま。王。飲。び。て。これ。と。ん。眼。を。睜。じ。齒。と。切。り。る。母。生。ふ。異。る。べ
 客。王。小。や。び。や。う。これ。ハ。勇。士。の。武。あり。黃。燭。一。の。と。い。は。王。と。ま。ま。ま。か。ひ。て。
 大。る。獲。小。湯。と。た。じ。こ。ま。と。煮。る。を。三。日。三。夜。又。な。ぐ。も。あ。む。ら。う。も。ま。こ
 う。の。大。王。こ。ま。と。怪。ま。ま。づ。う。ら。獲。の。母。さ。ふ。の。た。て。う。眼。ん。と。ま。る。亦。と。客。ハ
 背。小。あり。て。干。將。の。劍。と。ま。援。王。の。以。と。う。ら。落。其。獲。の中。へ。破。と。入。る。客。劍
 と。ま。り。の。母。と。ま。づ。う。ら。も。劍。を。ね。て。三。の。首。獲。の中。あ。て。り。う。さ。も。小。燭。ま。つ。
 何。と。ま。王。と。も。已。れ。が。け。ま。ば。楚。王。の。臣。小。三。の。以。と。一。つ。あ。ぞ。葬。り。ぬ。今。う。汝。南
 北。の。北。の。宜。春。縣。の。界。ある。三。王。墓。こ。ま。と。ま。と。ま。ま。漢。土。の。書

于久將
か久劍
三え頭
せ煮
り心

寶屋庫卷四



禁王

行客

寶屋庫卷四

十五



みえ尺干赤

板築の
驛よ
妙沖尼
父の
死と
成る
ところ



橋下なる

妙沖尼

苦くおぼさるめ。既ふたなる澄文あり。文徳実録卷之一。十。小高嘉祥
三年。五月壬辰。流人橋朝臣逸勢。正五位下。追贈。詔せる由。
遠江國下りのひて。本郷よ。海。葬らひのひら。抑逸勢。右中辨
從四位下。入居の子。性。とあり。放。交。あ。て。細。節。よ。拘。ら。ひ。尤。ま。て。隸。書。よ
妙。あり。死。さん。ハ。宮。門。の。務。領。ふ。人。の。手。跡。見。在。せ。り。桓。武。の。お。ん。と。死。
延。暦。の。季。子。遣。唐。使。小。隨。て。唐。朝。小。到。り。る。唐。の。中。又。人。と。ま。を。稱。す。橋
秀。才。と。い。ひ。と。あ。ん。か。て。帰。り。ま。る。の。日。致。官。と。歴。事。一。が。年。老。羸。病。よ
と。り。て。閑。居。と。仕。そ。ま。ら。ぶ。ん。か。り。程。よ。承。和。九。年。連。よ。伴。健。卒。が。謀
反。の。と。よ。降。り。ま。て。掠。拷。ま。し。も。服。ど。う。り。と。そ。の。死。と。滅。ら。し。伊。豆。國。配。流
ま。る。り。と。い。め。逸。勢。が。配。流。よ。赴。く。と。死。只。一。女。あり。悲。泣。て。父。と。慕。ひ。歩
下。り。と。從。へ。バ。官。兵。監。送。者。と。ま。と。叱。り。て。從。へ。と。許。さ。な。ど。也。女。見。か。ら。ん

遠くも去る書ハ止て夜ハぬ潜チ小従入程ハ遠勢ハ遠江ニ於
 板築驛ヲ至到行リ。こゝ逆旅小舟ナリ。女児ハ天ニ叫びつ地
 小根轉て悲めども救へず中あざれば。かく驛下小葬りて喪前ノ序を
 締ひ屍と守りて遂ニ去る。茲髪ニて尼とあり。妙冲とある。各告げる
 されバ亡父の爲小誓念小雲時中懈らば。曉より暮々々々を苦行ん
 常小あざれば路人由こまが爲小洞衣襟を濡ぬかく爲一葬まこと
 詔あふるびて。女僧ハ父ガ屍と負て晴チ小な京せく。時の人感嘆し
 稱て孝女と唱びる。又同書の卷の五の第十二張小仁壽五年。
 五月甲寅正五位下橘朝臣逸勢小従四位下也。加贈一のハ小紙
 裁し。ろろ小正史ハ是れ國史ハ俗稀るれば。實りのハ志
 で系竹の。ろろろろふひひ艶曲也。こももこもろの。爲小驚鳥一侍

り。凡物語を能く小善人と悪人ナク。証也。悪人と善人小能く是
 ごと言以勸め。悪と懲一人情と演理系と正之を野史也。真の小説
 とも。喝々と笑えし。小悪人ある。ぬろろ又と悪人といつ。朽と推量
 あり。といひつけ。うら酸鼻のふぞ。まのろろとも小目を拭ひかく。笑
 ハ逆勢ぬハ学問也。手迹也。唐山中名とせり。いと
 愛した文人あり。一旦罪とぬら。身後小罪をた。笑え。位
 小贈りもの。こももこもこも。けり。かる孝女のありとも
 恩恵せのふる。りつべ。こりの。子ありけり。かる孝女のありとも
 志。ハ。妙冲尼といふ名とせり。今も。め。織る。純也。こ。これらの。條を
 草紙の。と。人書。も。と。め。世の。女女子。孝行。を。勸。る。が。書。紙。の。の。本
 意。な。る。と。こ。の。是。鬼。俣。の。謡。曲。也。その。名。の。極。く。妙。也。と。云。言。人。あり。也。

